「日本証券サミット（Japan Securities Summit）」の模様について

日証協・平成 25 年 2 月 5 日

日本証券業協会では、日本の証券市場を海外においてプロモートするため、平成 20 年より「日本証券サミット」（Japan Securities Summit）を開催している。去る平成 25 年 2 月 5 日（火）、国際資本市場協会（ICMA）との共催により、英国ロンドンにおいて第 5 回日本証券サミットを開催した。

今回のイベントでは、日欧の業界代表者を中心とする round-table discussion を開催したほか、これに続くセミナーでは、「市場インフラの進化と取引所の対応」に関する基調講演、「日本の証券市場：その魅力と可能性」及び「日本国債」に関するパネル・ディスカッション等が行われた。スピーカーとして、日本及び英国・欧州の証券・金融業界、機関投資家、シンクタンクの代表、シティの Lord Mayor、金融庁の国際担当参事官、財務省の国債担当課長らが参加した。また、今回のイベント開催にあたり、麻生太郎副総理・財務大臣兼金融担当大臣からメッセージが寄せられ、会場で配布されたイベント・ガイド冒頭に掲載された。

今回のイベントは、新政権発足や株価上昇で日本への関心が高まる中で開催され、ロンドンで活動する証券会社、金融機関、機関投資家、ファンド・マネージャー、投資顧問業者、情報ベンダー、法律・会計事務所、国際機関、報道機関等から約 280 名が来場した。

○　議論の概要

本イベントにおいて行われた議論の概要は以下のとおり。

【日欧証券市場代表者の懇談会】

セミナーに先立ち開催した日欧の業界・市場関係者による round-table discussion には 22 名が参加し、在英国日本大使館公使の河上洋右氏の司会により、

1）投資銀行業務の分離
2）規制の域外適用
3）日本国債の保有とそのリスク
4）金融取引税
5）金融センターの課題・役割
6）英国のＥＵ脱退に関する国民投票

等が議論された。

【開会の辞】

セミナーの冒頭、ICMA チーフ・エグゼキュティブのマーティン･シェック氏及び本協会副会長／自主規制会議議長の島崎憲明氏が開会の辞を述べた。ここでシェック氏は、「公正で効率的な資本市場の構築という目的を共有する ICMA と日本証券業協会は 5 年前に情報交換・業務協力に関する覚書を締結した。今回のイベントはその協力体制の一環として開催される。日本における新政権の誕生、日本取引所の発足により、日本に対する国際的な投資家の関心が高まっている中で行われる今回のイベントは極めて時宜を得たものである。」と述べた。

島崎議長は、「経済の長期的低迷、高齢化、巨額の財政赤字､生産拠点の海外移転など様々な課題に直面しながら、日本の新政権は日本経済の復活を図ろうとしている。その中で証券市場は大きな役割を果たすことが期待されていると同時に、投資・ビジネスに関する様々な機会を提供している。本日のセミナーでは、日本の経済・市場の最新の動向を紹介するとともに、日英両国の市場関係者のリンケージ強化を図りたい。」と述べた。

【基調講演：市場インフラの進化と日本取引所の対応】

日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO の斉藤惇氏が「市場インフラの進化と日本取引所の対応」というテーマで基調講演を行い、新政権の発足と企業業績の好転に対する株式市場の反応や最近の IPO の増加を紹介するとともに､1 月に発足した日本取引所グループの成長するアジアに立脚した業務戦略について説明した。また、同氏は、日本取引所グループが取り組む課題として、上場企業のコーポレート・ガバナンス強化や、OTC デリバティブ取引の清算ビジネス、機関投資家向けの TOKYO PRO-BOND Market の進展を紹介した。

【パネル１：日本の証券市場／その魅力と可能性】

最初のパネルでは、国際銀行協会事務局長のポール・ハンター氏がモデレーターとなり、金融庁国際担当参事官の森田宗男氏、大和総研副理事長の川村雄介氏、パシフィック・アライアンス・グループ・ジャパン パートナー兼 CEO のアンソニー・ミラー氏、みずほインターナショナル マネージング・ディレクターの福士裕氏がパネリストとして参加し、金融当局、シンクタンク、日本で活動するファンド・マネージャー、ロンドンの市場プレーヤーの視点から、日本の証券市場の課題と可能性として、以下の諸点を指摘した。

１） 日本の証券市場は、企業・個人が保有する巨大な資産、技術力のある企業、深い流動性等に支えられた大きな潜在力を有する一方、人口の高齢化、巨額の政府債務、低成長とデフレーション等困難な課題に直面している。

２） 当局は、銀行・証券・保険を包括的に監督する単一の効率的な規制システムの下で、90 年代の不良債権問題への対応を経てバランスシートを強化した金融セクターについて、グローバルなスタンダードに立脚した規制緩和及び市場の効率性・公正性強化を進めている。

３） 昨年末に発足した新政権は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間活力を生かす成長戦略を発動して、成長を通じた富の創出、経済の活性化を目指している。経済の長期変動の動向からみても、日本経済がアジアの成長力も生かしつつ回復軌道に乗ることが期待できる。

４） 一方で、いくつかの事例で明らかになったように、日本企業では、ステークホルダーズ・バリュー（株主価値）が尊重されておらず、投資家にとって効率的な経営が行われているとは言い難い面もある。直近の株価の動向を見ると日本株への大きな投資チャンスが訪れているとも考えられるが、投資家に正当な利益還元をもたらすには、コーポレート・ガバナンスの強化が不可欠である。

【ゲスト・スピーチ】

ロンドンの金融街シティの市長（Lord Mayor）であるロジャー・ギフォード氏がゲスト・スピーチを行い、ロンドンの金融センターとしての地位・今後の取組みを述べるとともに、「日本は英国にとってアジアにおける最も重要なパートナーであり、90 年代に 6 年間東京で勤務した自分自身の経験も踏まえ、共に成熟した金融市場を有する日本と英国が相互に協力して繁栄を図る方策を探りたいと考えている。本年 4 月に訪日するので、是非有益なイニシアティブを協議したい。」と述べた。

【パネル２：日本国債】

パネル・ディスカッションに先立ち、財務省理財局国債業務課長の大内聡氏が基調プレゼンテーションを行い、日本経済のマクロ的な動向、新政権の経済政策を踏まえた国債管理政策、国債発行計画、国債市場の動向、財政健全化の展望について説明した。

このプレゼンテーションを踏まえ、バークレイズ・キャピタル国際経済部マネージング・ディレクターのジュリアン・キャロー氏がモデレーターとなり、パネル・ディスカッションを行った。パネリストとして、大内課長のほか、キャプラ・インベストメント・マネジメント LLP 創業者の浅井将雄氏、クレディ・スイス証券取締役副会長/ クレディ・スイス APAC 債券部門副会長の水野温氏 氏、バークレイズ証券マネージング・ディレクターの山川哲史氏が参加し、セルサイド及びバイサイドの市場プレーヤーの立場から議論を行った。主な指摘事項は以下のとおり。

１）国債の信用力の裏付けとなる財政の健全化のためには、新政権の経済政策が成功することが不可欠であり、同時に国際競争力強化のための法人税減税、経済活力の維持・強化のための高齢者から若年層への富の移転等を進める必要がある。

２）経済政策が成功すれば、2013 年の GDP 成長率は 2%を超える可能性もある反面、発電燃料の輸入増加に伴う国際収支の悪化、アジアの地政学的リスク等により政策効果が十分に表れない惧れもある。

３）日本の機関投資家の国債への需要は引続き強いものの、税収不足及び経常収支の悪化により国債の信用力に不安が生じた場合、需要は減退する可能性がある。主な投資家グループの動向として、以下の点が指摘された。

①経済が回復基調となり銀行の企業向け貸付が増えると、銀行の国債保有には減少圧力がかかる。

②超長期国債に対する生保の需要は強いが、国債以外のより有利な投資対象（外国債等）があれば、需要は減退する可能性がある。

③年金基金は、掛金収入を年金支払いが超過するため国債の売却を進める。

④日銀は金融緩和を進める中で国債を買い進めるため、国債保有に占める日銀のプレゼンスが高まる。その結果、中短期セクターと、長期・超長期セクターで国債市場の値動きで分断化が発生する可能性が高い。

【レセプション】

セミナー終了後に、日英市場関係者のネットワーク強化を目的にレセプションを開催した。レセプションでは、在英国特命全権大使の林景一氏がゲスト・スピーチを行い、日英関係のほか、新政権の政策、日本とアジア諸国との外交関係等を語った。

以　上

別 添

第５回日本証券サミット（於ロンドン）プログラム
（平成２５年２月５日（火））

１．　日欧証券市場代表者の懇談会（12:30～13:45）
司会：在英日本大使館公使 河上 洋右氏
（主なトピック）
・ 日欧経済の見通し
・ 日欧証券市場の課題と展望
・ 金融危機後の規制枠組みとビジネス環境
・ 日欧業界間の協力イニシアチブ

２．セミナー

○ 開会の辞（14:00～14:10）
国際資本市場協会チーフ・エグゼキュティブ マーティン・シェック氏
日本証券業協会副会長／自主規制会議議長 島崎 憲明氏

○ 基調講演（14:10～14:30）
「市場インフラの進化と日本取引所の対応」
日本取引所グループ　取締役兼代表執行役グループ CEO 斉藤　惇氏

○ ゲスト・スピーチ（16:10～16:20）
パネル・ディスカッション１（14:30～15:50）
「日本の証券市場:その魅力と可能性」
モデレーター：国際銀行協会事務局長 ポール・ハンター氏
パネリスト：金融庁参事官(国際担当) 森田　宗男氏
大和総研副理事長 川村 雄介氏
パシフィック・アライアンス・グループ・ジャパン
パートナー兼ＣＥＯ アンソニー・ミラー氏
みずほインターナショナル マネージング・ディレクター
福士　裕氏

○ ゲスト・スピーチ（16:10～16:20）
シティ・オブ・ロンドン市長　ロジャー・ギフォード氏

○　パネル・ディスカッション２（16:20～17:30）

（基調プレゼンテーション）

「日本国債の安定性：国債管理政策／財政健全化」

財務省理財局国債業務課長　大内 聡氏

（ディスカッション）

「日本国債：財政の現状と持続可能性／国債市場／日本経済」

モデレーター：バークレイズ キャピタル国際経済部

マネージング・ディレクター ジュリアン・キャロー氏

キャプラ・インベストメント・マネジメント LLP 創業者

浅井 将雄氏

クレディ・スイス証券取締役副会長/ クレディ・スイス

APAC 債券部門副会長　水野 温氏氏

財務省 理財局国債業務課長　大内 聡氏

バークレイズ証券マネージング・ディレクター

山川 哲史氏

３．　レセプション（17:30～19:00）

ゲスト・スピーチ：在英国特命全権大使 林 景一氏